



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



教区の皆さん、新年明けましておめでとうございませう。二〇一二年の元旦をいかがお迎えでしょうか。

祈る鹿兒島教区へ

皆さんとの歩みを始めて今年早七回目です。今年、祈りの鹿兒島教区を目指したいと思っております。...

2012年 年頭教書

祈りを深め若者と歩む教区へ

鹿兒島司教 郡山健次郎

そういふわけで、今年皆さんと一緒に取り組んでいきたいことは一つです。...

ですが、何かの集まりで次のような話を聞いたことがあります。...

に興味を覚えたのです。調べてみますと「決して見捨てられたことがないとして知られるノベナの祈り」が...

うに祈るのか、どのような間隔で祈るのかは各小教区によって違うかもしれませ...

若者と共に歩む教区へ

さて、そんな祈りの教区を目指す歩みの中で、先ず取り上げていただきたい祈りの意向は若者たちのこと...

ですが、とても真面目で有益な時を持ちたいとも思っています。教区報の感想文を読んで、何よりも嬉...

彼らはまた、同じ価値観のもとに共に生きて行くことに喜びを感じること...

そこで、主任司教をはじめ小教区の皆さんにいくつかのお願いがあります。...

にも連絡を取っていただきたいと思えます。もし何かのことが判明したら何らかの関わりを持つように配慮していただきたいと思います。...



一 西郷さんとキリスト

「西郷さんはキリストンであった」と題する講演会、及びパネル・ディスカッション、そして郡山司教さま司式によるごミサが、二〇一二年一月二十二日曜日(マリア山荘主催)で行われます。基調講演は、西郷南洲頭彰会館長・高柳毅先生がなさってくださいませ。

「キリストの歴史」の四の月号において、この催しにちなみ、「西郷隆盛とキリスト教」について、お話ししてみたいと思います。

二 西郷は聖書を読んでいたか
西郷さんがキリストンであったという説を発表されたのは、鹿児島・西郷南洲頭彰会館長の高柳毅先生です。西郷南洲頭彰会館の前の館長は、谷山カトリック教会所属で元校長先生であられた山田尚二先生です。

高柳先生は、頭彰会誌『敬天愛人』十四号(一九九六年)において、この説を発表されました。爾来、先生はこの考えを堅持され、研鑽を重ねておられます。

まず、西郷が聖書を読んだかどうかということについては「有馬藤太が、西郷より聖書を貸与されたという証言から、読んだことが確認されている」と述べておられます(＊注一)。

貿易を行っていたので、香港・上海で発行された聖書を手に入れたとも考えられます。慶応二年から三年頃と推定されているのです(＊注二)。

三 西郷は洗礼を受けていたか
「西郷さんが洗礼を受けていたかどうか」ということについては、四年前(二〇〇七年)、頭彰館で開催された「敬天愛人と聖書展」に、福岡から訪れた参加者が「西郷は洗礼を受けていた」と証言したことが、西郷キリストン説を一層有力なものにさせました。彼は「西郷が洗礼を受けたという洗礼証明書を見たことがあるが、その証明書は、戦災で焼失してしまった」と

証言したのです。その日付は、明治五年頃、つまり西郷が内閣を組閣していた頃のことであったということです。文明開化となつてキリスト教禁教令が撤廃され、公にキリスト教を信じる自由が与えられるようになり、西郷さんも宣教師から正式に洗礼を受けるに至つたというわけですね。

また、幕末に既に西郷さんはキリストンになつており、薩摩藩の河邊(かわなべ)一族の屋敷で聖書を講じたり、種子島へ聖書を教えに行つたりしていたという言い伝えもあります。これは、薩摩島津藩と対抗していた川邊一族三十八代当主川邊二夫氏の証言により確認されています。幕末に、既に、西郷さんはキリスト

教を信じ、入信していたということなのですね。

四 敬天愛人
西郷さんと切つても切れない「敬天愛人」ということばです。このことばの出典は儒教の教えから来ていますが、西郷さんの「敬天愛人」のことばには、儒教のわくにとどまらないものがあります。明治元年に『西国立志編』を著し、後にクリスチャンとなつた中村正直も、その著作の中で「敬天愛人」のことばを用いています。正直は、はじめは儒教のわくにとどめていたのですが、西欧思想への理解を深めるに及び、「敬天愛人」をキリスト教的に理解するようになっていき

同胞であり、仁の心をもつて衆を愛するのが愛人である。これを目的とするということである。

「二十四 道は天地自然のものにして、人はこれを行ふものなれば、天を敬するを目的とす。天は人も我も同一に愛し給うゆえ、我を愛する心をもつて人を愛する也」

(訳) 道というのはこの天地のおのずからなるものであり、人はこれにのつとつて行ふべきものであるから、何よりもまず、天を敬うことを目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛したもうから、自分を愛する心をもつて人を愛することが肝要である。「人を相手にせず、天を

ました。高柳先生は、二〇〇七年の「敬天愛人と聖書展」を準備された資料の中で、そのことに言及されておられます(＊注三)。西郷さんも、中村正直と同じようなキリスト教的理解をされておられたといえます。

キリストンの歴史(四)

西郷隆盛はキリストンだった その一

溝辺教会主任司祭 坂本 進

「二十一 道は天地自然の道なる故、講学の道は敬天愛人を目的とし」(訳) 道というものは、この天地のおのずからなる道理であるから、学問を究めるには敬天愛人、すなわち、道理をつつし守るのが敬天である。また人は皆自分の

「注」
一 西郷南洲頭彰会『敬天愛人 十四号』二二〇頁
二 同 二二三頁
三 同『敬天愛人と聖書展』九十二頁
四 同 十二頁
五 渡部昇一『南洲翁遺訓を讀む』二十四頁

司教執務室便り

今年もよろしく!



先般、あれもこれも、との指摘を受けたが、自分でもそんな感じがしている。手が回りかねていると感じているからだ。つまり、ノベナの祈りにしても、各小教区で工夫すればいいとは思いますが、韓国ではノベナの祈りが普通になされているのだという。そして、いろいろのノベナの祈りの仕方を紹介するテキストも出版され、信徒の皆さんは一人ひとりが祈り書やロザリオと同じように日常的に使用しているのだという。なるほど、「祈りの教区になる」といつても、道具が必要なんだと実感。道具も提供できない現状は韓国から見ればゼロからの出発ということになるのかも知れない。ただ、鹿児島教区でも、ノベナの祈りになじんでいる人は多いようなので悲観はしていないのだが、韓国教会の祈りの生活に学ぶ巡礼を計画したいと思う。祈りがこたます教区。今年、そんな夢の始まりにしたい。

手が回りかねていることの二つ目はジェジュ教会との姉妹盟約に向けての段取りだ。自分の目と耳で確かめてくるという有志もおられて頼もしいのだが、自分なりにザビエル様の足取りをたどつてみた。先ず二月十五日はザビエル様がベルナルドとマテオの二人を司祭にするためにゴアの聖パウロ学院に入学させた日。鹿児島教区独自の召命促進の日? 三月十二日は列聖記念日。四月七日は誕生日。四月十五日は鹿児島目指してゴアを出発した日。九月二十九日は島津貴久との会見。十月二十五日列福記念日。十一月十五日離日。十二月三日帰天。八月十五日を中心にごうしたゆかりの日に企画を練つて、ザビエル様と巡礼と祈りの教区になるため、なんとか有機的につながらないものか。ワールドユースデーの霊性を鹿児島若者たちにといい意気込みはあるが、青少年司牧についても名案があるわけではない。担当者と若者たち自身に期待したいところだ。パパ様が異邦人の庭と位置づけたいインターネット宣教も継続しないといけない。あれもこれも同時進行だ。で、皆さん、今年もたくさんよろしく。

知名瀬教会がリフォーム

12月3日に感謝ミサ

奄美大島は小宿小教区(ダウン神父主任司祭)の巡回知名瀬教会では、老朽化した教会の内外装のリフォームを終え、教会の守護の聖人「聖フランシスコ・ザビエル」の祝日・12月3日(土)、その感謝のミサをささげた。



次回に続く

「なれかし」の心で歩んだ五十年

大野和夫神父の司祭叙階金祝を祝う

大野和夫神父(大島地区長館管理者・聖心教会協力司祭)が司祭叙階五十周年(金祝)を迎え、十二月十八日(日)出身の名瀬聖心教会で感謝のミサをささげた。

ルピス大神学院へと進学した。同神学院で三年学んだ大野神父は、今度は院長の勧めでローマへ留学。ウルバノ大学で六年学び、一九六一年十二月二十日、ローマで叙階された。叙階されてからの神父は、教会法を学ぶためにローマ



参列者全員で記念撮影



シドッチ祭 十一月二十三日(水)屋久町主催の「シドッチ祭」が屋久町小島のシドッチ上陸記念碑前で開かれ、教区からも郡山司教や山司教や山司教や山司教が参列し、地元の人々と

神のはからいに感謝

大野和夫神父金祝の挨拶から(要旨)



奄美大島に宣教師が帰って来たのは、一九四七年のこと。だから私は二十歳の頃まで「神なし」の生活を送っていた。そんな私が、「真理の本源」という本に出会うことで、信仰生活に立ち返ることになった。神学校に進むことになったのは二十六歳のとき。何となく感じるようになって

いた召命についてレイ教区長に相談したところ「すぐに福岡の神学院へ」と言われ、なぜかしら誰にも相談せず「はい」と即答し、神学校へ行く決心をした。もちろん数科目による入学試験もあったが、ラテン語の試験などそれを習ったことのない私が書いたのは、名前だけ。それでも合格となった。ラテン語だけでなく、長崎出身者のように公教要理を学んでなかった私は在学中、成績不良者とされていた。「田舎に帰れ」と宣告されるのかと心配していた。だから進級できたのにも不思議だった。それなのにさらに院長からローマへ

を務め、一九九七年二月から二〇〇七年まで大島地区長として活躍した。このいつも呼びかけに素直にこたえながら生きてきた大野神父の金祝ミサには郡山司教をはじめ六人の司祭が駆けつけ、三百人を超える信者たちと大野神父が歩んできた歴史を振り返るとともに、これからの健康と活躍を祈った。式典の交流のひとつを持った。きぼうの電話認定式 十一月二十五日(金)、鹿兒島きぼうの電話では、今年の養成講座を終えその修了式と認定式を行った。相談員として新たに三人が認定されたが、まだまだ相談員は不足で、事務局ではあと二十人ほど相談員を増やし、もっと多くの苦しむ人の声を聴けるようにしたいと語っている。大口で堅信式 十一月二十七日(日)大口教会で堅信式があり、九人が大人の信者の仲間入りをした。聖ザビエルのミサ 聖フランシスコ・ザビエルの祝日にあたる十二月三日(土)午後、ザビエル教会に郡山司教と七人の司祭、三人の助祭が集まりミサがささげられた。教区の保護の聖人の祝日のミサにこれだけの司祭が集まった



五十周年を振り返った大野神父は、これまでの司祭生活は神の導きのおかげ。神の導きは皆さんの祈りのおかげ。もう年齢的に大きな働きはできないが、祈りを大切にし絆を深めていきたい」と挨拶した。ミサ後は会場を近くのホテルに移し、大勢の信者とともに、和やかに楽しい祝宴のひとつを過ごした。

の初めのこと。ミサ後には茶話会も開かれ、その席上郡山司教から二〇一二年には聖ザビエルの右腕が安置されているローマのジェズ教会とザビエル教会の姉妹教会盟約を実現させたい旨が語られた。エレベーターの祝福 老人ホーム「聖の郷」ではエレベーターの設置工事を終え、十二月十二日(月)郡山司教を招き、その祝別式を行った。式典に先だつて入居者の居室等を見学した司教は「同じ信仰を持つ者が寄り添いながら、いつでも祈り、ミサにあずかれることは素晴らしいこと」と聖の郷の存在意義を喜んだ。

で五十年を振り返った大野神父は、これまでの司祭生活は神の導きのおかげ。神の導きは皆さんの祈りのおかげ。もう年齢的に大きな働きはできないが、祈りを大切にし絆を深めていきたい」と挨拶した。ミサ後は会場を近くのホテルに移し、大勢の信者とともに、和やかに楽しい祝宴のひとつを過ごした。

1月の会と催し

1日(日)	神の母聖マリア
4日(水)	世界平和の日
5日(木)	七田八十吉神父命日(一九八〇年)
7日(土)	ルカ神父命日(一九九八年)
8日(日)	顧問会・教区本部・15時
9日(月)	教区司祭会(司教ミサ「神学生・志願者のため」)
10日(火)	16時・ザビエル教会
14日(土)	連合壮年会主催「神学生・志願者を励ます会」
15日(日)	17時・ザビエル教会ホール
16日(月)	盛克志神父霊名(聖ライムンド)
17日(火)	主の公現
18日(水)	主の洗礼
19日(木)	助祭叙階式・ソウル市
22日(日)	宣教学校・13時30分・15時30分・教区本部
25日(水)	永島泰蔵神父命日(二〇〇二年)
29日(日)	年間第二主日
30日(月)	年間第四主日
カトリック児童福祉の日(献金)	司祭大会・奄美市・2月2日
18日(水)	中野神父の信仰養成講座・10時・12時・19時・20時30分・教区本部
19日(木)	キリスト教一致祈祷週間・25日まで
22日(日)	ハイシク神父命日(一九八九年)
25日(水)	年間第三主日
29日(日)	郡山健次郎司教霊名(聖パウロの回心)
30日(月)	年間第四主日

KABAYAN SEKSIYON+

ANG DIYOS AMANG MAKAPANGYARIHAN PANIMULA

"Ako ang Makapangyarihang Diyos. Sumunod ka sa akin..." (Gen 17:1) "Sa ganang atin ay iisa lamang ang Diyos, ang Ama na lumikha ng lahat ng bagay, at tayo y nabubuhay para sa Kanya. Iisa ang Panginoon, si Jesu Kristo..." (1 Cor 8:6). Ang sentro ng ating panrelihiyong Pananampalataya ay ang Diyos, "ang simula at ang wakas" (Is 44:6). Mahalagang mahalaga, kung gayon, kung papaano natin nakikita at "isinasalarawan" ang Diyos. Mula sa Tipanang ginanap ni Moises sa Bundok Sinai, minana ng mga Krisitiyano ang isang napakagandang larawan ng Diyos. "Ang Panginoon, ay mapagmahal at maaawain, hindi madaling magalit, ipinadarama ang pag-ibig at nananatiling tapat" (Ex 34:6). Ayon sa awit ng Salmista: "Purihin ang Panginoon sapagkat siya y butihin;... Ang Panginoon ating Diyos ay dakila at malakas" (Sal 147:1,5; Pah 15:3-4). Ngayon, higit kailanman ang pangangailangan sa wasto at personal na pagkaunawa sa Panginoon. Ipinapahayag ng Kredong Krisitiyano ang Santatlong Diyos: Ama, Anak at Espiritu Santo. Ang Kredo at ang buong katesismo binabalangkas ayon sa Santatlong Diyos: tinatalakay sa Bahagi I ang Ama, kasama ng Anak, na ang mga turo tungkol sa moral na pamumuhay ay tinatalakay sa Bahagi II, at ang Espiritu Santo sa Bahagi III. Tulad ng Kredo, nagsisimula tayo agad sa Diyos Ama, na siyang pinatungkulan ni Kristong ating Panginoon sa pagtuturo sa atin para manalangin (Lu 11:2).

KALALAGAYAN

Ang isang kapansin-pansin sa ating mga Pilipino ay kung gaano tayo bukas-loob sa pakitungo sa Diyos. Isang karaniwang halimbawa nito ay ang mga sumusunod na halaw mula sa Pasyong Tagalog. O Diyos sa Kalangitan, Hari ng Sangkalupaan, Diyos na walang kapantay, Mabait, lubhang maalam at puno ng karunungan. Ikaw ang Amang tibobos Na nangungulilang lubos, Amang di matapus-tapos, Maawai t mapagkukpog, Sa taong lupa t alabok. * Ang ganitong pagiging kaugnay ng Diyos ay hindi pangnakaraan lamang. Kahit ngayon, saan ka man makakita ng isang itinatatayong bagong programang pabahay na sinisimulan, isang kapilya ang karaniwang itinatatayo. Parang walang hangganan ang bilang ng iba t ibang pangkat panrelihiyon sa buong lupain. Sa mga Pilipino, tanggap na nila na ang Diyos ay sentro ng kanilang buhay-sambahayanan, at kapakanan, maging sa pamilya at mga sariling interes. Tamang-tama ang panahon na ito na pinaghahandaan natin ang pagdiriwang ng Pagsilang ng Panginoon Hesukristo, na ating Taga pagligtas. Siya ang Salita ng Diyos Amang Makapangyarihan, at nagkatawang-tao at nakikiisa sa atin. Sana ay nakahanda na ang ating mga puso para sa pagsalubong sa ating Panginoon Jesus. "MALIGAYANG PASKO AT MASAGANANG BAGONG TAON" SA INYONG LAHAT Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orolfo)

園児が届けたクリスマス

加世田聖母幼稚園

「息子も聖母卒園です。五十歳になろうとしてます。今でも、イエスの誕生の劇をしているんですか？」

園児たちがクリスマス会の案内状を近所に届けた際の会話である。

去る十二月四日(日)い

にしえホールを会場に、全園児七十人によるクリスマス会が行われた。二歳から六歳まで、それぞれの園児たちの演技は会場に感動を



与えた。特に、十月に入園したばかりの数人の園児たちの保護者は「まさか、あそこまでできるとは思いませんでした」「年長組の手

話ソングに涙が出ました」など、涙して話された。満席の会場のお客さまの拍手だった。そしてサンタクロースの登場は園児たちに大きな喜びと励み、支えを与えてくれた。

神さまの仕業

終身助祭 石神秀人

現在、阿久根市にある聖園老人ホームでは移転新築を行っている最中ですが、建設に至った過程の中で神様の仕業らしき行為を思い知らされることが何度かありました。

はじめに建設計画そのものからです。

平成二十年度に前法人から施設の移譲を受け、次年度には建設計画の青写真を描いたわけですが、周りからは財政面でも、移管直後で経験的にも早すぎるとの声があちこちから聞かれました。しかし施設は四十数年もたち、限界でした。一方では利用者からは施設の仕様上からのトラブル

も絶えませんでした。施設長である川涯園長の口癖があります。それは「神様が必要と判断されるなら、そのことはうまくいきます」です。

よくよく考えてみると設計のこと、土地の購入などについて間違ったことは訂正され、私たちが施設建設に失敗しないように神さまが見守ってくれていることに気づいたので。

「その土地ではないよ」というときはその土地は買えないように計画され、その設計では無理と思われるときは断念させられました。今考えるとまったくそ

できた。市の教育委員会から「十一月の文化祭では、聖母幼稚園さんが大変好評だったそうで、三月の青少年自然の家感謝祭にも、ぜひ出演を」と依頼があった。地域に支えられ成長する園児たちとともに、地域の中にある聖母幼稚園としてこれからも努力していきたい。

の通りだったのです。

さらに鹿児島県の十数カ所の施設建設希望の計画が出されている状況の中から

聖園老人ホームなどが県の補助金を頂くことができたことも神のほからいなしであり得たでしょうか。決して単なる偶然の連続ではありませぬ。神さまの仕業だと確信しました。神さまの声を聴きながらここまでできました。これから造られるこの施設は神さまの恵みをたくさん頂いたものだと思いつつ、建設を見守りたいと思えます。

ご案内

▼マリア山荘霊性センター

黙想会「西郷隆盛はキリシタンだった―西郷の霊性―」

日時 一月二十二日(日) 十時三十分〜十五時

講師 高柳毅先生(西郷南洲顕彰館館長、前南日本新聞社調査部長) ※パネルディスカッションあり

費用 昼食代として五百円 ※午前九時三十分からは郡山司教司式によるミサがささげられます。

▼信仰養成講座

これまで毎月第二木曜日に教区本部で実施されていた中野裕明神父の「信仰養成講座」は、講師の勤務上の都合により第三水曜日へ変更となります。従いまして、一月は十八日、二月は十五日の開講となります。但し、三月は第二水曜日(十四日)。時間は午前の部が十時から十二時、午後の部が十九時から二十時三十分。

イエズス会立山修道院から黙想会のご案内

テーマ：みことばから自分の生き方を見つけよう。友だちといっしょに。
 日時：2月18日(土) 11時〜19日(日) 16時
 予定：18日/受付・集合(11時)〜ミサ〜昼食〜お話(日)〜夕食〜教会の祈り・面会
 19日/朝の祈り〜朝食〜お話(火)〜ミサ〜昼食(会話)〜ミニ巡礼(大山教会*9割がカトリック信徒の町大山へ)〜解散(JR駅前・16時)
 指導：ディアス師(イエズス会) 対象：どなたでも
 参加費：7,000円(1泊2日・4食+巡礼交通費を含む) *前泊又は日曜延泊の方は費用追加
 場所：イエズス会立山修道院「長崎黙想の家」長崎市立山5-8-30
 申込み：イエズス会立山修道院
 Sr. 中島 ☎095(821)4577 椿 i821)4585

文

芸

出水市 沖 弘子

岩蔭咲きて武家門の奥明るくす飾り付け終えて閑かや聖夜待つ

純心学園 山頭 信子

霧島市 政 ノブ子

ゆるし受け降誕祭を祈り待つ 鹿児島純心 川上 和

奇しき日の創立ことほぐ紅椿 愛光園 春山マリ子

寝起きするベッドの冬の温もりか

短歌

鴨池教会 前田 儀子

ひと筋のあをき悲しみをひく眠りより覚め妹の句集ひもとく

ぐつぐつとおでんの煮ゆるテーブルに孫の作りしどんぐり独楽廻す

赤き月窓を訪れ夜の更けにラフマニノフのピアノコンチエルト聴く

鹿児島純心 川上 和

思い馳せ被災地冬の空模様だるまマークにうずき止らず

愛光園 春山マリ子

スーさんの「やさしいみ言葉」⑧ 心の置き場所

年の初めは主婦の方にとって来客のもてなしなどのために非常に忙しい時期だと思えます。こうした最中、ふとマルタとマリアの話を思い出すがおられるのではないのでしょうか。さて、この有名なエピソードを読み解く鍵は「マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていた」というフレーズにあります(ルカ10・40)。ここで「せわしく立ち働いていた」と訳された言葉は、原語では心がそこにない状態を意味します。こ

のことから、マルタはもてなしのために些かパニック状態に陥っていたのではないのか、ということが想像されます。もしそうであれば、イエス様はマルタをいさめ、目の前にいるご自分に向かっているご自分ということをそつと伝えたと考えられるのです。実はこうしたマルタの行いは私たちにあてはまりません。誰でも祈りの最中やミサの途中でつい他のことを考えてしまった経験があると思えます。イエス様が目の前にいなながらも他のことに気を取

られてしまう私たちは、まさにマルタと同じようにイエス様を前にしても「心そこにあらず」の状態なのではないでしょうか。

ところで、マルタとマリアが住んでいたのはベタニアという町なのですが、どういうわけかこの名前には「悲しみの家・苦悩の家」という意味があります。その名の謂れは分かりませんが、ふと考えてみれば、私たちの日常生活に於ける本当の悲しみや苦悩とはイエ



ス様が近くにおられるのにイエス様に心を向けず、他のことに心が捕らわれてしまっている、ということにあるのかも知れません。不思議なことに、イエス様はこのベタニアという物悲しい名前がついた町を好み、何度も足を運んでいて、ことが福音書から分かかります。確かに、私たちはイエス様から心が離れてしまうことが多々あります。しかし、イエス様は何度もベタニアを訪れたように、私たちのところにも何度でも来てくださるのです。マルタとマリアの話は単に給仕に関する話ではありません。信仰生活に於けるイエス様と私たちの関係を表しているのです。